



Y.Machida

THE MAINICHI HAI

第72回 毎日杯 (GIII)

本賞	41,000,000円	2着	16,000,000円	3着	10,000,000円	4着	6,200,000円	5着	4,100,000円
付加賞	350,000円		100,000円		50,000円				



レース映像は
コチラでご覧
いただけます。

3歳、除未出走馬および未勝利馬
負担重量 馬齢重量

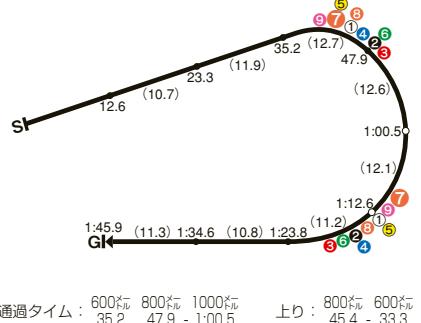
2025.3.29 阪神 暫・良 芝1800m (国際) (特指)

種	馬名	性	年齢	斤量	騎手	タイム	コーナー	上り	馬体重	単勝	オッズ	調教師	レーティング
						(着差)	通過順位	(600m)	(増減)				
1	⑦ ファンダム	牡	3	57	北村宏司	1:45.9	7-9	32.5	470(±0)	4.5(5)	辻 哲英(美浦)	113	
2	③ ガルダイア	牡	3	57	藤岡佑介	1	1-1	33.5	478(-4)	30.8(7)	国枝 栄(美浦)	111	
3	⑤ ネプラディスク	牡	3	57	武 豊	1	7-6	33.1	434(-8)	9.7(5)	福永祐一(栗東)	109	
4	④ アスクシュタイン	牡	3	57	川田将雅	1½	4-3	33.7	498(±0)	7.9(4)	藤原英昭(栗東)	106	
5	⑥ エコロディノス	牡	3	57	岩田望来	1½	2-2	34.0	464(±0)	15.2(6)	大久保龍志(栗東)		
6	② ウォータークラーク	牡	3	57	幸 英明	7タタ	2-3	33.9	468(-6)	57.5(8)	石橋 守(栗東)		
7	⑧ リラエンブレム	牡	3	57	浜中 後	クビ	5-5	33.7	480(+4)	2.1(1)	武幸四郎(栗東)		
8	① キングノジョー	牡	3	57	坂井瑞星	1¼	5-6	33.9	440(-8)	4.6(3)	田中博康(美浦)		
9	⑨ セルズパワー	牡	3	57	M.アルーロ	½	9-8	33.8	464(-4)	138.3(9)	牧田和弥(栗東)		
10	⑩ ヴォラヴィア	牡	3	57	田口大成			450(±0)			杉山佳明(栗東)		

単勝7450円(2^%) 複勝7190円(2^%) ③590円(7^%) ⑤290円(5^%) 枠連③-⑦2,750円(9^%)

馬連③-⑦6,610円(19^%) ワイド③-⑦1,470円(19^%) ⑤-⑦790円(10^%) ③-⑤2,500円(24^%)

馬単⑦-③9,830円(32^%) 3連複③-⑤-⑦14,420円(42^%) 3連単⑦-③-⑤72,780円(194^%)



35.2 47.9 - 1:00.5 45.4 - 33.3

アラカルト

- ・北村宏司騎手は毎日杯初勝利。JRA重賞は本年初勝利。通算38勝目
- ・辻哲英調教師はJRA重賞初勝利
- ・サトウルナーリア産駒はJRA重賞初勝利
- ・ヴォラヴィアは馬場入場後に疾病(左前肢跛行)を発症したため競走除外

ファンダム *Fandom*

牡 鹿毛 2022.2.13生
北海道白老町 (有)社台コーポレーション白老ファーム生産
馬主: (有)キャロットファーム 美浦・辻哲英厩舎
馬名意味・熱狂的なファン。その大規模なコミュニティ。母名
上り連想

		グレイトフィーヴァーFR系 F1-p
サートウルナーリア 黒鹿毛 2016	ロードカナロア 鹿毛 2008	キングダムカハメハ
	シーザリオ 青毛 2002	レディブラッサム
	シーザリオ 青毛 2002	スペシャルウイーク
	シーザリオ 青毛 2002	キロフブリミエールGB
ファンティック 鹿毛 2016	ジャスタウェイ 鹿毛 2009	ハーツクライ
	ジャスタウェイ 鹿毛 2009	シビル
	グレイトフィーヴァーFR 芦毛 1997	Kaldoun
		My Great Hope

5代までのインブリード：サンデーサイレンスUSA S4×M4

INTERVIEW

吉武幾夫 統括主任
(有)社台コーポレーション自老ファーム

北系由来の末脚を發揮してくれました

グレイトフィーヴァーの牝系では最初の重賞勝ち馬となります。この牝系の血を引く馬は切れのある末脚を受け継いでおり、毎日杯でもそれを遺憾なく発揮してくれました。幼い頃からスリムな馬体をしていて、距離はあった方がいいのではとも思ってきました。右回りの競馬しか経験していませんが、左回りは末脚を生かせる舞台が多いので次走が楽しみです。



中山・芝1600mの初陣をコースレコードで勝ち上がり、続くジュニアCも着差以上の強さを感じさせる内容で快勝。この日は関西圏への輸送、200㍍の距離の延長も問題とせず、新種牡馬の父サートウルナーリアと開業5年目の辻哲英調教師に初のJRA重賞制覇を贈った。出色的の上がりタイム(32秒5)を記録してデビュー3連勝を飾った新星の次走は後日、ダービーに決定。皐月賞までは一転、混戦ムードが漂い始めた競馬の祭典にまたひとつ、大きな“見どころ”が加わった。

父サートゥルナーリア

北海道安平町 ノーザンファーム生産 中央10戦6勝(皐月賞G_I、ホープフルS G_I、
神戸新聞杯G_{II}、金鯱賞G_{II}、有馬記念G_I2着)、最優秀3歳牡馬、21年から供用
〔代表産駒〕ファンダム(本馬)、コートアリシアン(新潟2歳S G_{III}2着)、ニュー
ジーランドトロフィーG_{III}3着)、レッドキンググリー(東京スポーツ杯2歳S G_{III}3
着)、クラウディアイ(京都2歳S G_{III}3着)、エストゥペンド(クイーンC G_{III}3着)、
アルメントフーベル(アネモネS・L3着)

母ファンティック

北海道白老町 (有社台コーポレーション白老ファーム生産 中央6戦1勝
フラワーカンパニー(2) 牛父オルフェーヴル)地方18戦3勝

ファンダム 本馬(22 牡父サートゥルナーリア)中央3戦3勝(毎日杯GⅢ、ジ
ュニアC・L) 獲得総賞金68,872,000円
トシクン(23 牡父ナダルUSA)
(24 牡父シルバーステート)
(25 不受胎)

祖母グレイトフィーヴァーFR

北米、仏5勝(ラプレヴォワイヤントH・米G23着、キャロティーンS・加L3着、ソロハイナH・米3着)。02年輸入、18年死亡。

ヒカルアモーレ(04 牝父クロフネUSA)中央2勝(忘れな草賞③着)、モン
ドデラモーレ(父(アルコンS⑥2着、ジュニアC・L2着)、シュペレ
ミエール(日経新春杯⑥3着)の母、グランテマーレ(オーロC・L)、ヴ
ェロナシナー(京都新聞杯GII2着、京成杯GIII3着)の祖母
テイクバイスクートー(05 牝父スマーヴィルIRE)中央3勝

ヒカルプリンス(06 騙父キングカメハメハ)中央3勝(秋元湖特別)、地方7勝、障害3勝

ラフォルジュユルネ(07 牝父スペシャルウイーク)中央4勝(関門橋S、笛崎特別
別三歳牡特走)

アーデント(09牡父ディープインパクト)中央5勝(リグルS⑩p、いちょうS⑩p、春闘S、八ヶ岳特別、弥生賞G④、3着、ニーイヤーS⑩p、3着)

ラブラバード(10 牝父スペシャルウィーク)中央5勝(御堂筋S、鴨川特別、二木松特別)

シャルール(12 牝父ゼンノロブロイ)中央4勝(初音S、北大路特別、クイーンS GⅢ 2着、福島牝馬S GⅢ 2着)、カニキル(栗(三浦特別、フローラ

S_{GII}3着)、トランキリテ(毎(洛陽S・L2着、六甲S・L3着)の母
ファンティック(16前出)

2017年のアルアイン、昨年のメイショウウタバアルのようになじみながら華やかに優勝馬を飾る一方、近年はNHKマイルCやダービーを見据える馬も多く参戦してくる毎日杯。本馬場入場後にヴァオラヴィニアが競走除外(左前肢跛行のため)となり、9頭立てで争われた今年も多彩な実績馬、良血馬が集結したなか、2戦2勝のリラブランブレムとファンダムが1、2番人気の支持を集めめた。2頭の明暗は大きく分かれ、断然の存在と目されたシンザン記念の覇者リラブランブレムは身上の末脚が不発に終わって7着。これを匡目にファンダムが鋭い決め手を冴えさせ、無傷の3連勝を飾った。

二の脚でスピードに乗ったガルダイアが、並んで飛び出した内のウォータークラークを抑えて先手を奪取。単騎で主導権を握ってからはゆったりとした流れに持ち込んで風を切る。3番人気に支持されたジャステインパレスの半弟キングノジョーは折り合いに重念しながら徐々に位置を下げ、中団を追走。その2馬身ほど後ろにリラエンブルムが続き、外めの枠から内に入れたファンダムの北村宏司騎手も、一同となつた馬群の後方に未脚勝負に構えたマイペースで逃げたガルダイアは残り600メートル地点から加速、速いラップを立て続けに刻んで後続を突き放し、押し切り態勢を築く。しかし直線に向